



新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、2020年3月以降、多くの高等学校が休校となりました。オンライン学習の導入状況は、「休校前から実施」が1割程度(12.2%)だったものの、7割以上(72.5%)が「休校後に実施」「今後実施予定」となり、全体の8割が実施と回答。事前の準備にかかる時間は4人に1人(25.1%)の教員が「4時間以上」と答え、多くの学校がオンライン化の対応を急速に進めている一方で、現場の先生の負担の大きさがうかがえる結果となりました。

■アンケート実施概要

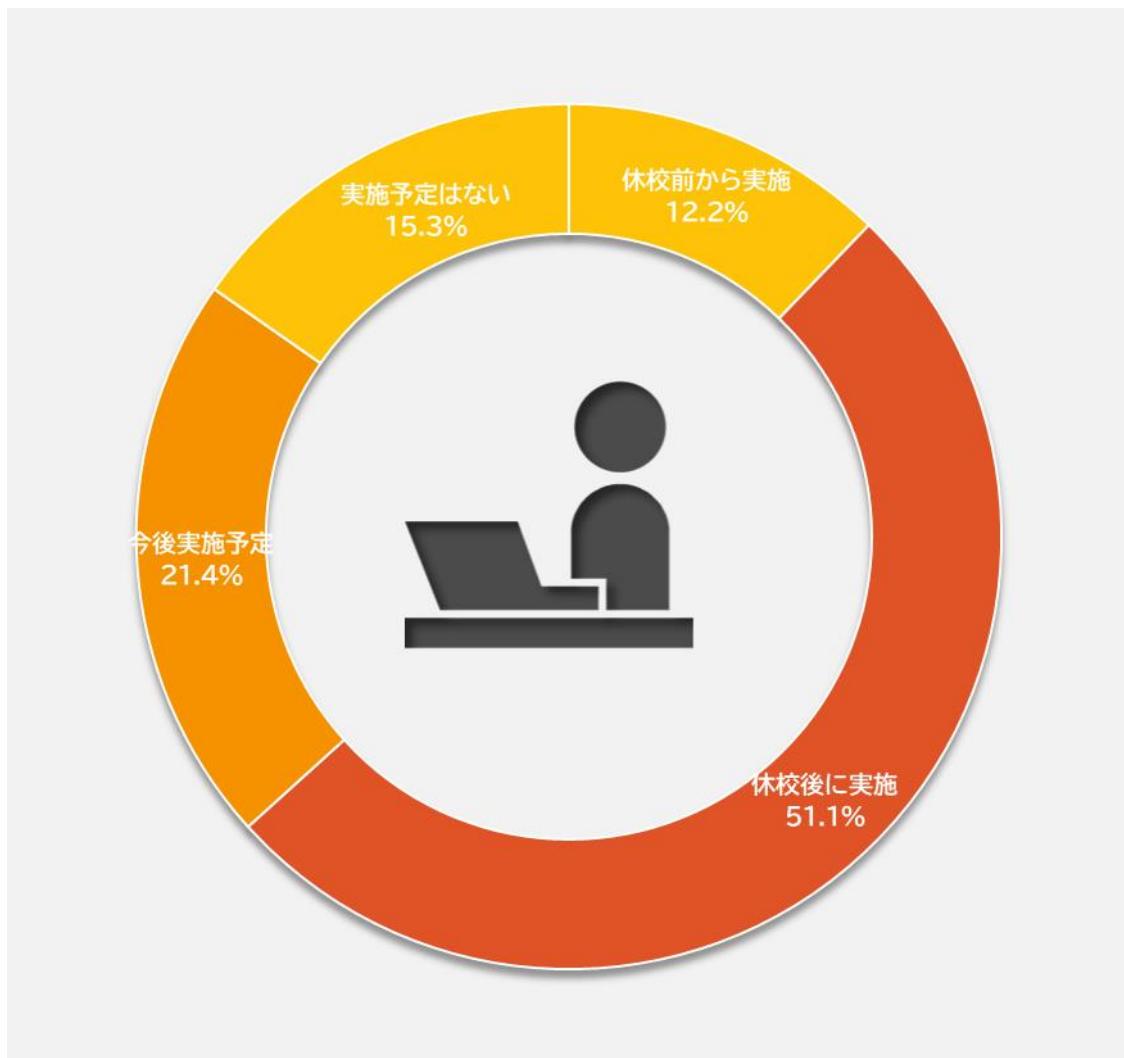
調査対象：「旺文社 高大コネクトサービス」会員 全国の高等学校教員

調査時期：2020年5月12日～5月13日

調査方法：インターネット調査

回答規模：1,330件

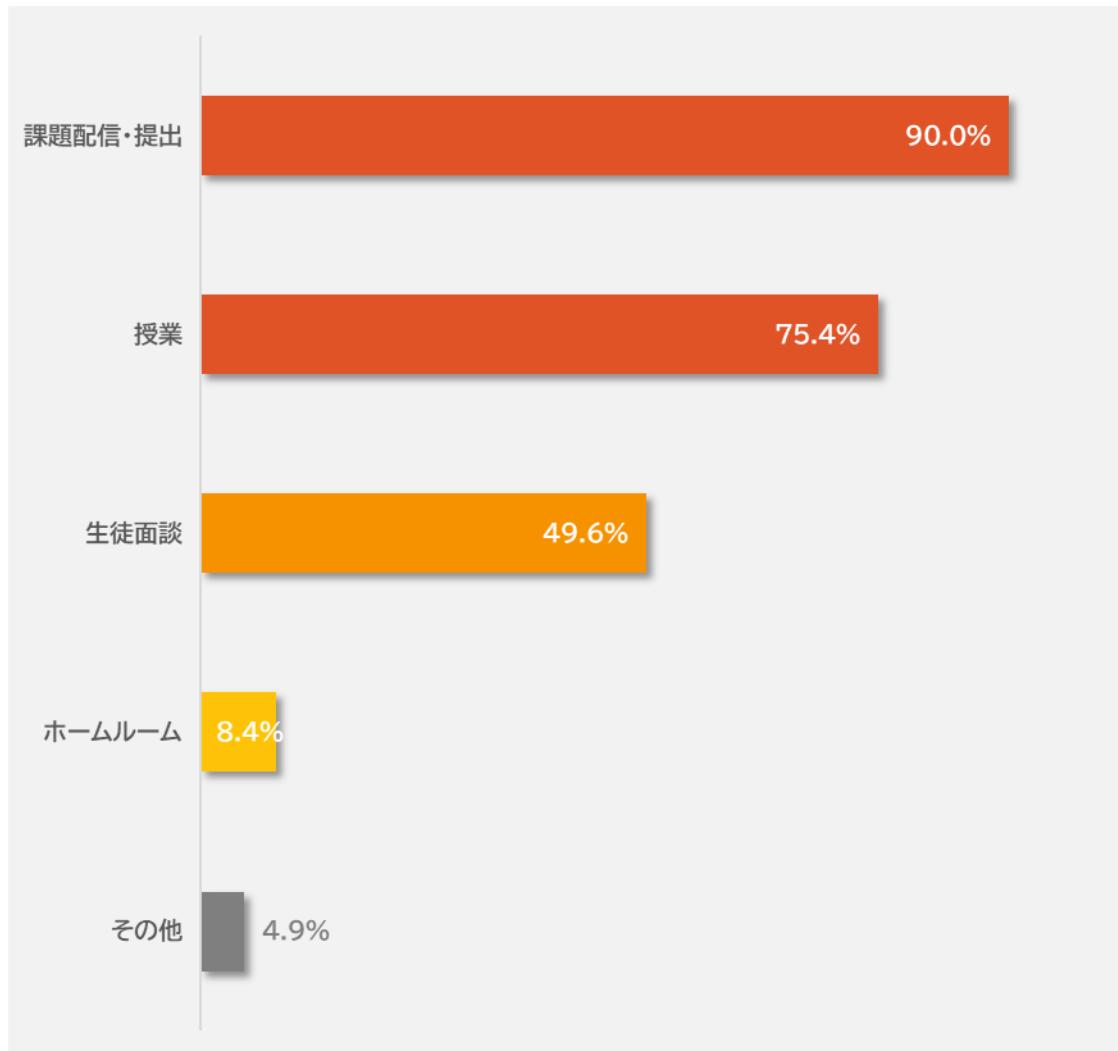
Q1. 休校に伴い、学習のオンライン化に取り組んでいますか



「休校前から実施」が 1 割程度(12.2%)だったものの 7 割以上 (72.5%) が「休校後に実施」「今後実施予定」となり、急激な環境対応に迫られている教員の状況がうかがえる結果となりました。

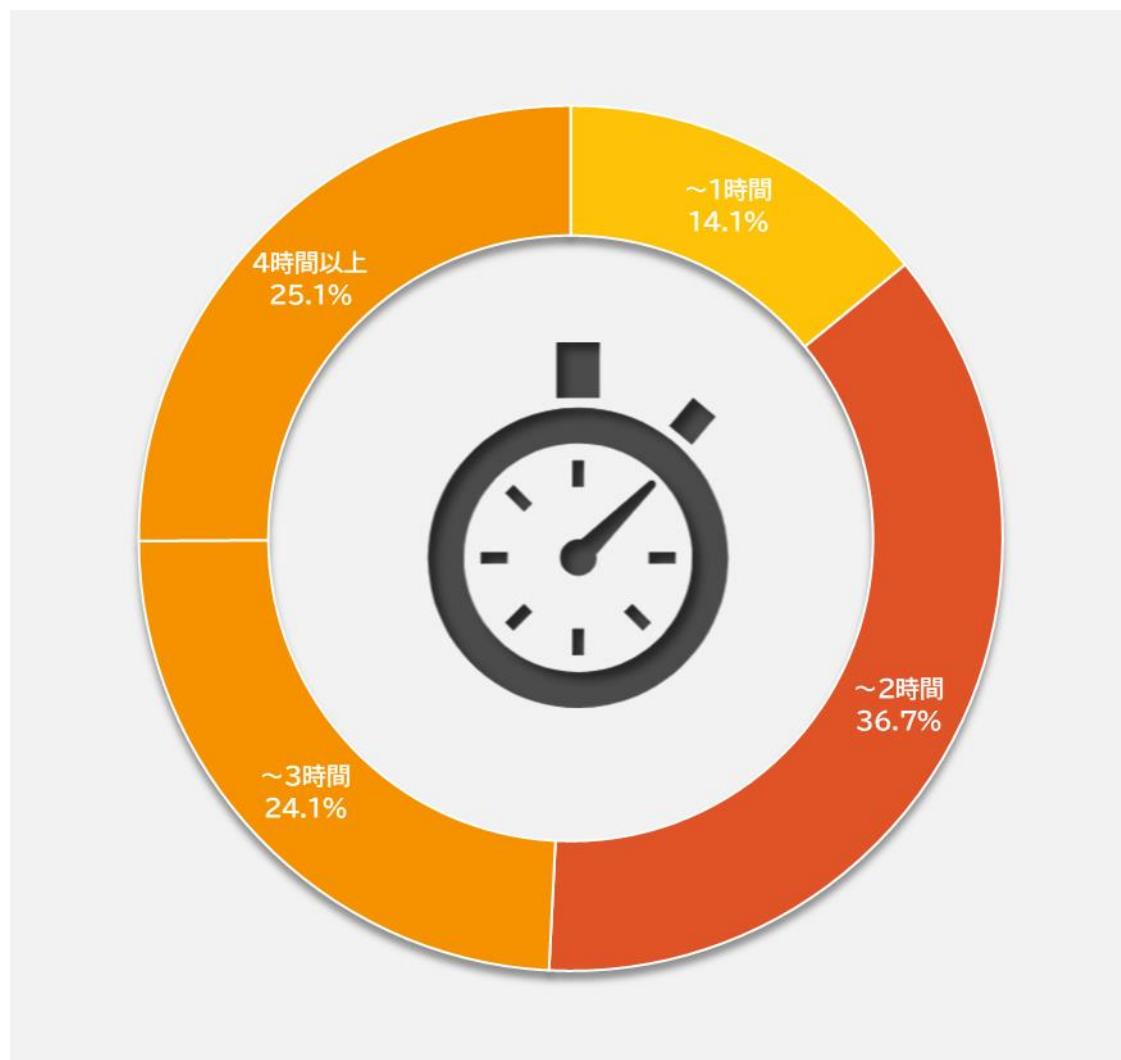
※Q2～5は、Q1 オンライン学習の実施状況について「休校前から実施」、「休校後に実施」と回答した方のみ

Q2. オンラインの取り組みを実施しているシーンについて教えてください（複数選択可）



従来は対面で行われる課題提示や授業、面談という回答が多く、コロナ禍の影響が色濃く出る結果となりました。

Q3. オンラインで授業・課題作成を行う際、準備に使う時間はどの程度ですか

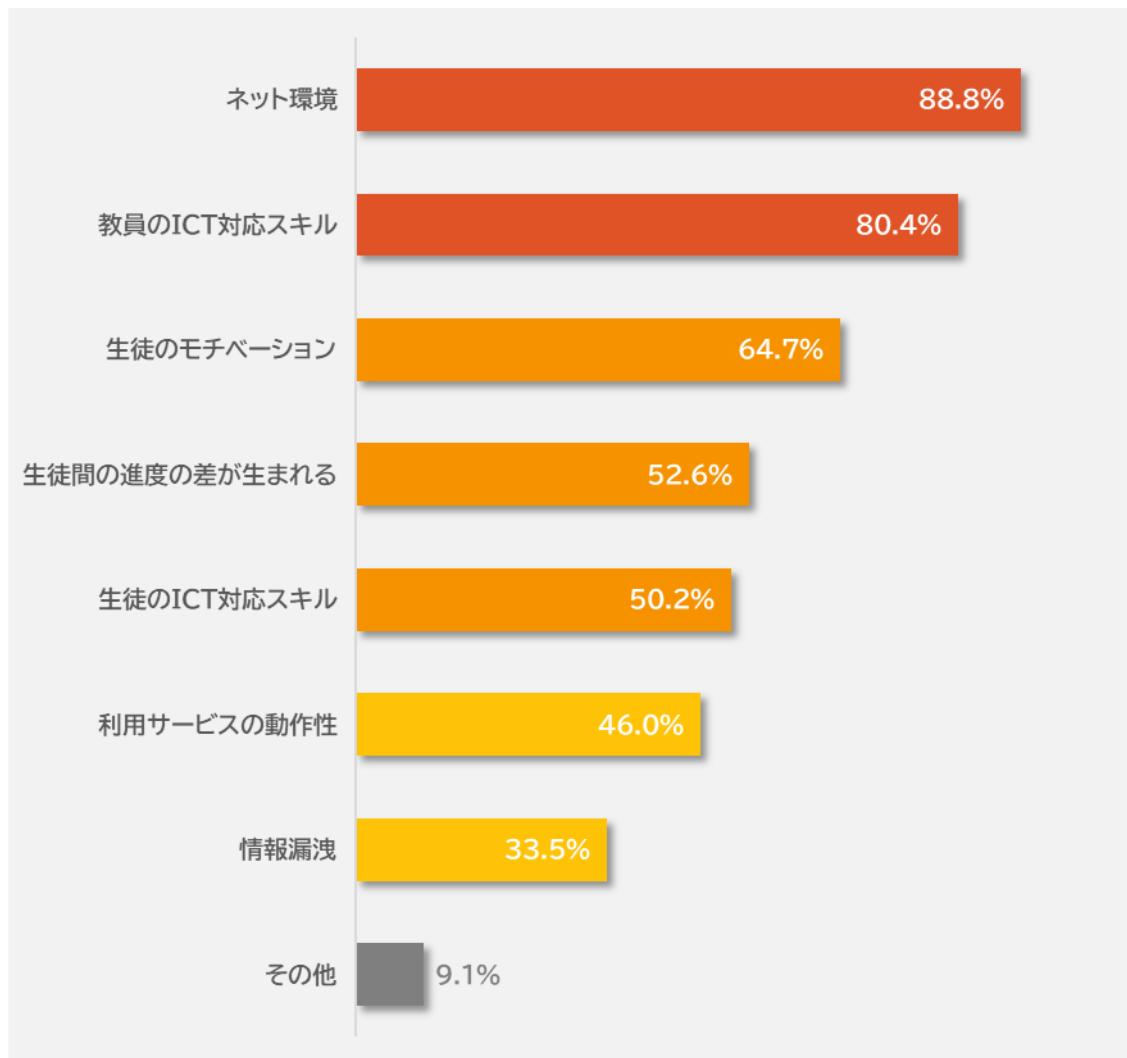


4人に1人の教員が「4時間以上」と回答。コロナ禍のオンラインツール導入により、教員の負担増がうかがえる結果となりました。

Q4. オンライン学習・授業を取り入れてよかったですがあれば教えてください（自由記述／一部抜粋）

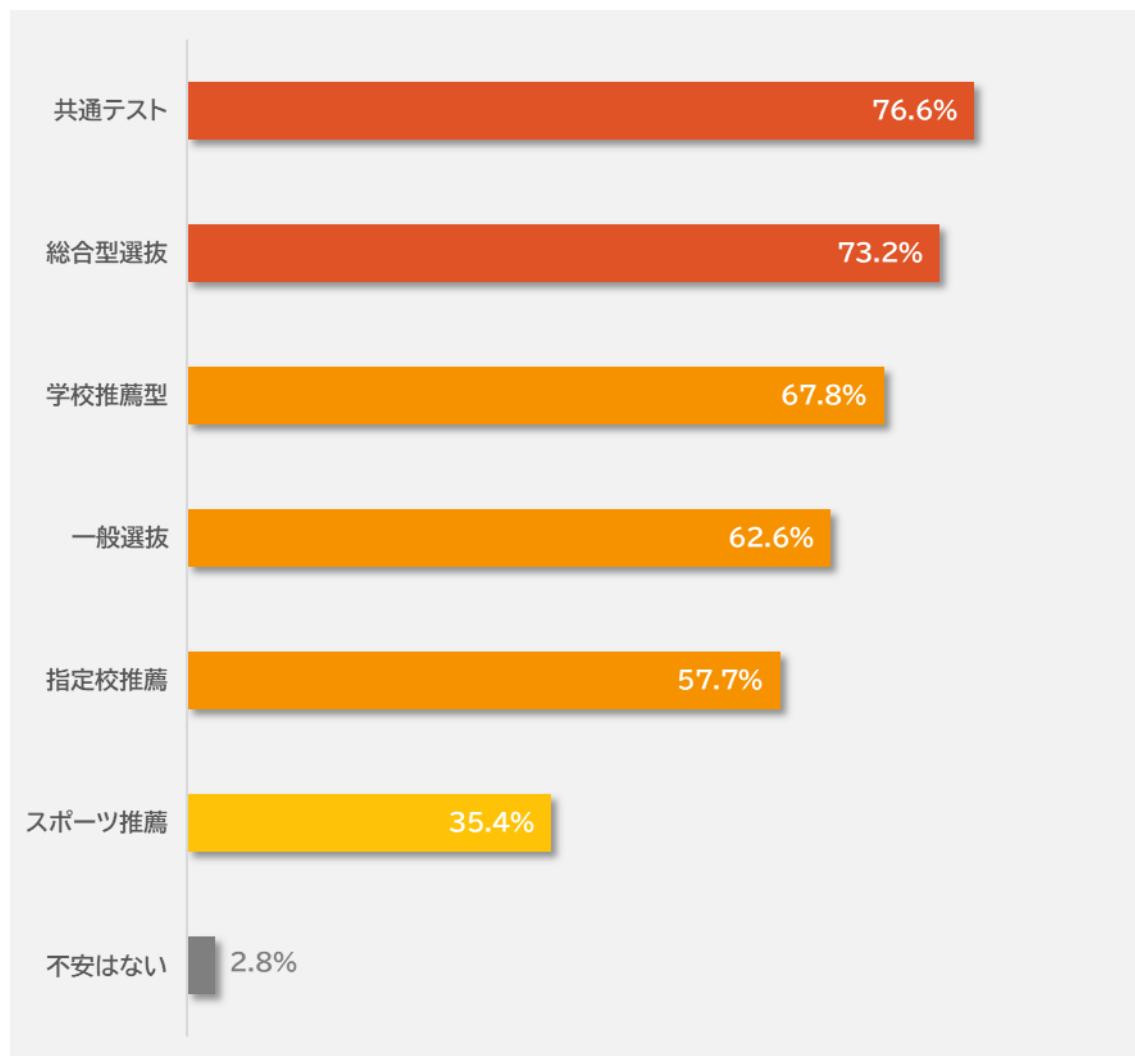
- 繰り返し視聴できること。生徒が聞き逃したり、理解できなかったところを巻き戻したりして確認できること。
- 生徒が学校との繋がりを感じ、質問しやすくなつたこと。
- 複数クラスに同一の授業が提供できること。
- ペーパーレス化と授業記録を残しやすいこと。
- 教員がYouTube動画の作成など、新しいことに挑戦できたこと。
- 課題の提出状況が一目でわかること。
- 生徒の学習状況のアンケートなどの集計に時間が大幅に減少したこと。
- 不登校生徒への対応ができること。
- 通勤・通学がなくなり、時間が有効に使えるようになったこと。
- 生徒への個別の連絡がやりやすくなつたこと。
- 教員間で課題の出している状況が見やすくなつた。
- 生徒にとって自由な時間に配信動画を何度でも確認できること。

Q5. オンライン学習においての課題は何ですか（複数選択可）



1位「ネット環境」(88.8%)、2位「教員のICT対応スキル」(80.4%)、3位「生徒のモチベーション」(64.7%)となり、多様な課題に直面していることがうかがえる結果となりました。

Q6. 今後の進路指導で不安なことは何ですか（複数選択可）



ほぼ全ての教員が不安と回答。大学入試制度の改革による新入試実施初年度で例年以上の緊張感が高まっていたなか、さらにコロナ禍による混乱のため、進路指導についての不安が増大したと考えられます。

Q7. 入試における不安を具体的に教えてください(自由記述/一部抜粋)

共通テスト

235

総合型選抜

57

指定校推薦

28

学校推薦型

31

スポーツ推薦

45

授業

90

※単位=回答数。自由記述でとくに記述の多かったキーワードを6つに分類にして集計(重複含む／全回答数=1,058)

■ 「共通テスト」に関する記述

- ・試験日程がどうなるのか、出題範囲が終わらない、共通テストに向けた対策の時間が取れない
- ・共通テストが実施されるのか？共通テストのための模試が受けられない(延期されている)ため対策が遅れる
- ・共通テスト対策。休校中に本校生徒の学習時間が少ない。他校とますます学力差が広がること

■ 「総合型選抜」に関する記述

- ・大会中止や資格検定試験が延期されており、大会実績、資格取得格差が生まれ、平等性に欠けるため総合型選抜
- ・出願に先駆けてエントリーが間もなく開始される学校もあり、対面での進路指導がほとんどできないまま入試モードに突入する不安

■ 「指定校推薦」に関する記述

- ・一学期の成績が出せるかどうかという状況下での指定校の推薦基準や日程が例年通りなのか
- ・3学年の指定校推薦を希望している生徒の、休校中の成績はどのように反映し選抜するのか

■ 「学校推薦型」に関する記述

- ・開催時期(予定通り実施されるのかどうか)、学校推薦選抜の試験内容
- ・新様式調査書はどうなるのか。学校推薦型選抜はどの程度変わらるのか

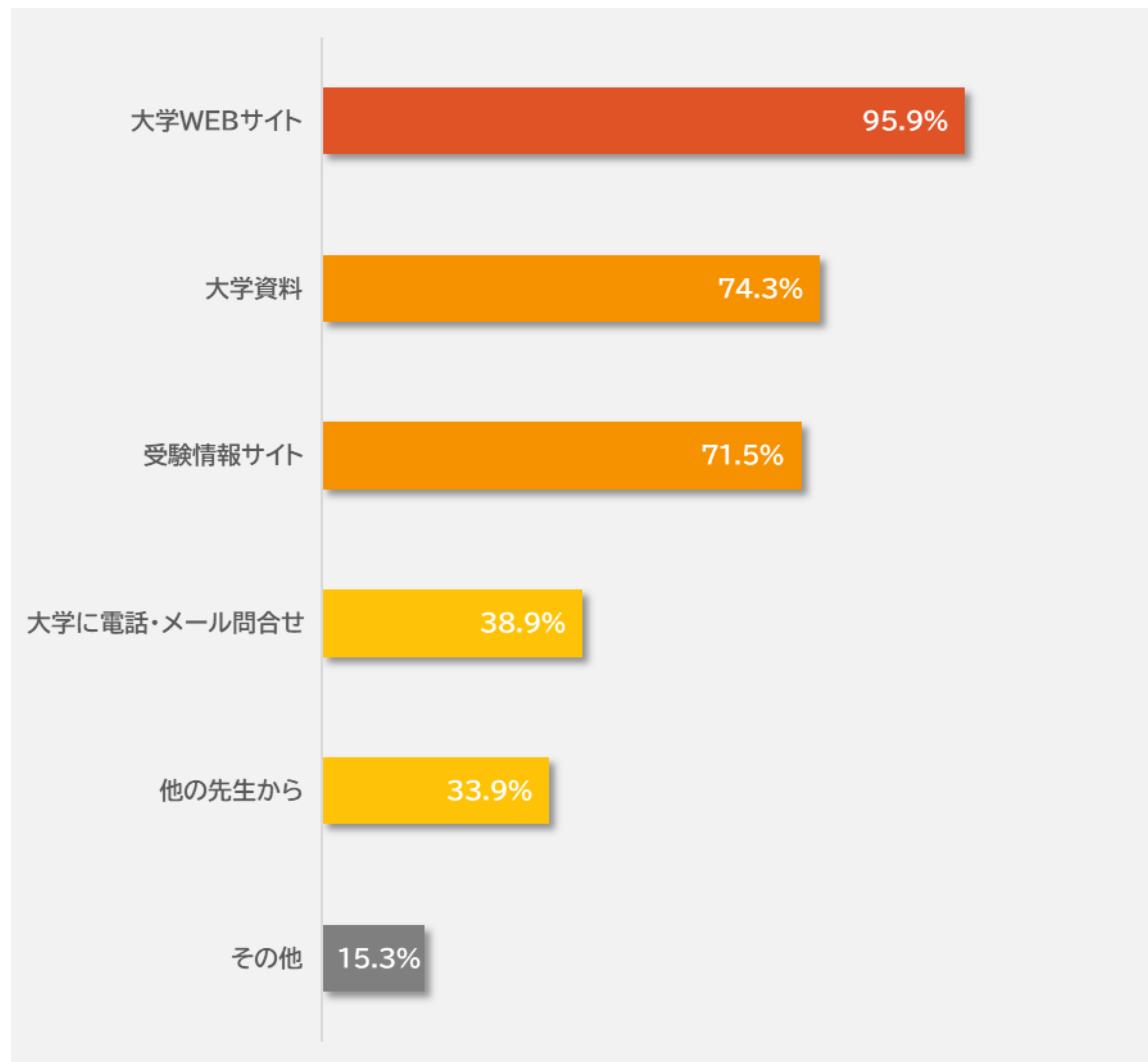
■ 「スポーツ推薦」に関する記述

- ・3年生1学期の資格取得が難しく、部活動生徒はインターハイ等の大会が中止されたため、各種推薦入試の基準がわからない
特にスポーツについては、高大の顧問間のコネクションで大きな格差が生まれてしまうのではないか

■ 「授業」に関する記述

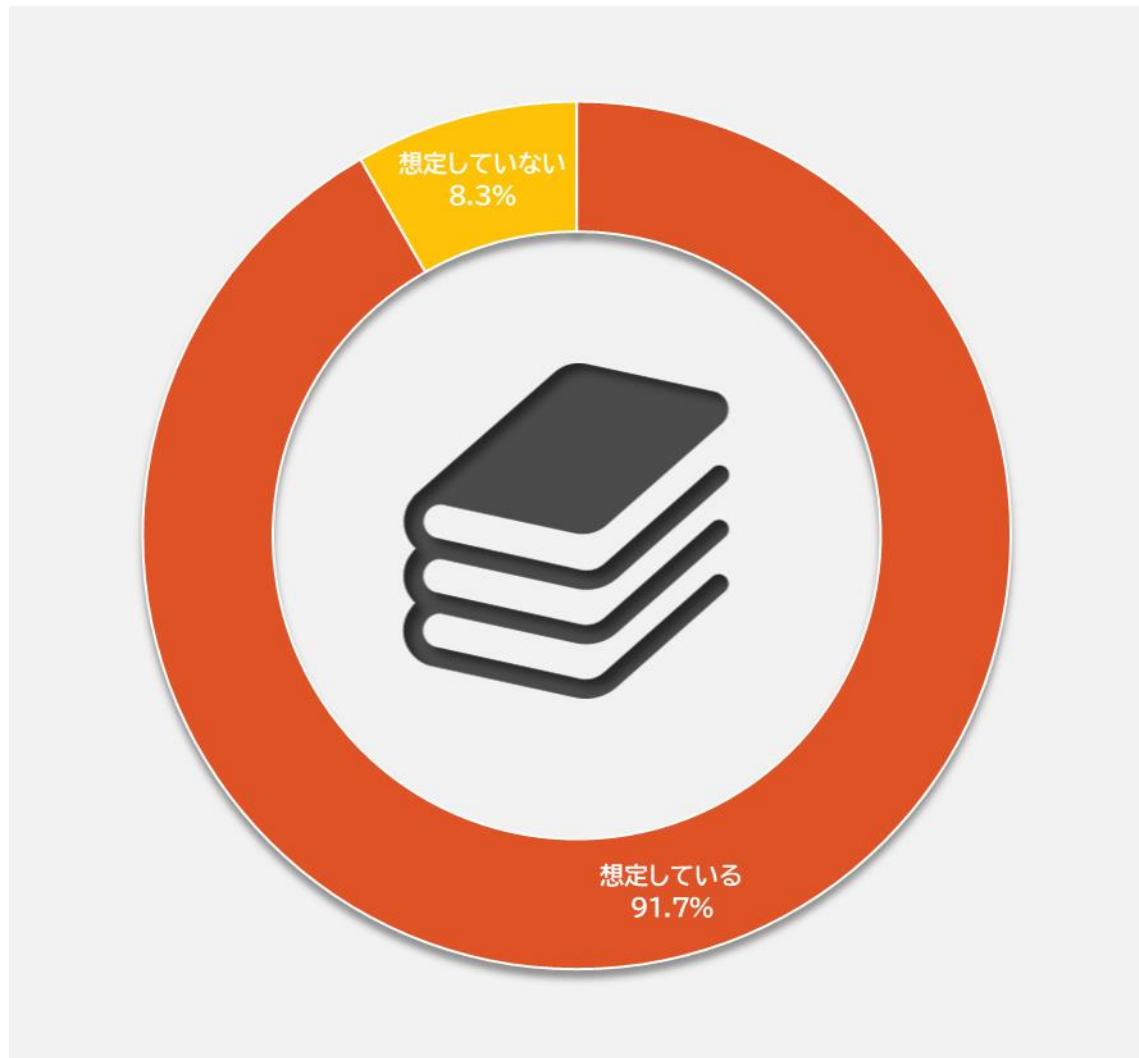
- ・生徒によって学習進度が異なるので、授業再開後の生徒フォローに時間がかかり、対策に費やす時間が足りないおそれがある

Q8. 各大学の入試情報は今後どのように収集していきますか（複数選択可）



「大学 WEB サイト」(95.9%)や「大学資料」(74.3%)といった大学のオフィシャル情報ほか、「受験情報サイト」(71.5%)の活用もあり、コロナ禍により直接対面が難しいなかでより多くの情報を収集しようとされています。

Q9. 休校期間が長引いていますが、夏休みを授業時間にあてることは想定していますか



ほとんどの教員(91.7%)が夏休みを授業時間にあてるこことを「想定している」と回答。休校により、このままでは十分な指導時間が確保できない状況であると考えられます。

■ 「旺文社 高大コネクトサービス」について

「旺文社 高大コネクトサービス」 <https://www.kodai-connect.jp/hs/login> は、入試改革の最新動向を含む大学の入試情報を、正しく、わかりやすく、タイムリーに全国の高校にお届けする、高校の教員限定の会員サービスです。旺文社と進学相談事業等を行う昭栄広報(東京都千代田区 代表取締役社長 関浩二朗)の両社が連携し、それぞれの得意分野を生かして運営しています。

旺文社は、80 年以上にわたり刊行する「螢雪時代」をはじめとする受験情報の各種データを会員様へ提供するサイト運営の主体となります。

昭栄広報は高校現場における進学相談などの実績を背景に、付加的なコンサルティングサービスに取り組むと共に、チエルグループの中核企業としてグループ各社と必要な連携を行い、運営を支援する役割を担っています。